

「賢さ」 ～愚かに生きていませんか？～

I 歴 28 : 2~10、19~20

石川県加賀市の片野鴨池は、淡水湿地で、網を投げてカモ類を捕獲する伝統的な「坂網猟」（県文化財）が有名な場所です。ラムサール条約でこの捕獲方法しかできないのです。この「坂網猟」は鴨が捕れる確率がとても少ない捕獲方法です。しかし、この方法をとることにより乱獲されることなく生態系が守られています。ラムサール条約とは世界の湿地を守る条約です。この条約の基本的な考え方は「wise use」です。wise＝賢明(かしこくて、物事の判断が適切であること。また、そのさま)と言う意味です。私たちは賢く生きてるでしょうか？神さまは私たちを素晴らしい人間につくってくださいました。ただ自分たちの考え方が悪い＝賢くないのです。賢さとは私たちの素晴らしさをどう用いるかということです。愚かに生きていませんか？神さまは色々な事柄をとおして私たちに「行動を改めよ」と教えてくださっています。聖書では「ありのままの姿で私の元に来なさい」といつも言われています。神さまは人格を否定していません。人格は神さまがつくられたものだからです。それなのに私たちは自分自身を否定されたと勘違いをしてしまって「もういい！」と言って行動を改めようとしなくなります。だから私たちは賢くならなくてははいけません。正しく「悪いよ」と言われた行動だけをちゃんと理解して直し、自分の素晴らしさに置き換えれば、決して自分の用い方を誤ることがありません。(I 歴28:2~10、19~20) 神殿を建てあげる、ダビデの後継者として、数いるダビデの子の中からソロモンが選ばれた理由は「ソロモンは、これを賢く建てることができる」と言われていたからです。ソロモンはバテ・シェバとの罪によって生まれた子でした。しかしソロモンが選ばれました。その理由は“彼は、この仕様書のすべての仕事を賢く行う(I 歴28:19) “者だったからです。神さまがたてた役割を堅く決心する…すなわち仕様書に書かれていることを忠実に行うという決心・素直な心を神さまは認められたのです。“主の宮の奉仕のすべての仕事(I 歴28:20)”とは/私たちに任された生涯にわたってやらなければいけない私たちの役割“です。その仕事を私たちがどのように担っていくのか…これが神さまに対する私たちの使命です。これを果たすために“強く、雄々しく、事を成し遂げなさい。恐れてはならない。おののいてはならない。神である主、私の神が、あなたとともにおられる(I 歴28:19)”と語られています。私たちには恐れがあるので人から何か言われると、恐れによって自分をダメにしてしまって開き直って「もういい！」と言って行動を改めようとしなくなります。神さまが私たちに語っているのは「I 歴28:7~10」です。この箇所のソロモンの部分を自分の名前に置き換えてください。神さまは私たちのすべての心を探り、“すべての思いの向かうところを読み取られるからである。もし、あなたが神を求めらるなら、神はあなたにご自分を現される。もし、あなたが神を離れるなら、神はあなたをとこしえまでも退けられる(I 歴28:9)”だから心の向かうところを誤らないように神さまは今までもそしてこれからもずっと私たちに教えてくださるのです。私たちには良いところがたくさんあります。しかし自らの保身や考え、欲、嫉妬や妬み…このようなものが私たちの本来の素晴らしさを屈折させてしまうのです。この汚さが心にくっついて本来の素晴らしさを曇らせてしまうのです。神さまはこの心に長年くっついてガチガチに固まってしまった取れにくい汚いものを取り除こうとしておられるのです。私たちがもうダメな人間なら消してしまえばよいものを、神さまは“元の素晴らしい姿”に戻そうとされているのです。私たちは神さまから素晴らしくつくられたものを眠らせていませんか？ソロモンはダビデに託されて神さまに選ばれ、そして自らもそれに従うことを決意していました。ソロモンは自分の弱さを知っていたのでこの役割を果たすために知恵が必要と考え神さまに求めました。私たちならどうでしょう？ソロモンのようにならなければいけません。「自分はダメだ、情けない」とか言わないで神さまに「この神さまに素晴らしくつくられた私を、自分に任された役割を果たすために、どのように使いこなすことができるでしょうか？」と祈りましょう。そしてもう一度、神さまから語られた時の対処の仕方を考えましょう。神さまに「～しなさいよ」と言われた時に「どうせ～」を撤去して従いましょう。①(マタ7:24)私たちはこの箇所に書かれている“**岩の上に自分の家を建てた賢い人**”のように行動できているでしょうか？土台(=イエスキリスト)がしっかりしていますか？イエスさまがどのように生きたのかを考え生活することです。イエスさまはどんな時も神さまにきいて生きたのです。神さまは必ず「こうやりなさい」と語られています。人や物事を通して語られるかもしれないし直接語られるかも知れませんが、神さまからの言葉を聞き、それを行うことが大切です。②(マタ24:44~46)あなたはいつも用心できていますか？忠実なしもべとは適切な時のそれをやっている者です。私たちはいつも備えられているでしょうか？自分の人生がいつ終わってもいいように…。人生何があるか分かりません。その時その時やるべき事は明白です。だけど自分の思いでやるべき事の順番を変えてしまったりしてしまいます。本来やるべき事を先延ばしにするとそれを失います。③(マタ25:1~2)②とは少し考え方が違います。こちらは「**まだ来ない、まだ大丈夫**」という考えです。神さまから「せよ」と言われたことを怠惰やその他の理由で「まだ大丈夫」と先延ばしにしていることはないですか？(詩19:7~8)これが賢明の意味です。言葉の意味がそのまま書かれています。私たちは、御言葉を覚えることでたましいが生き返ります。そして、主の戒めは正しくて私たちの心を喜ばせてくれます。神さまに戒められて「嬉しいー！楽しいー！」と言っていましたか？今までは戒められると自分を否定されたと勘違いをして落ち込んでいました。ここから直していきましょう。今度からは神さまからの戒めを喜びとして「神さま！ありがとう！！」と言っていきましょう。そして、(エペ5:15~17)です。これからが自身を建てあげる時です。今までは建てあげるための基礎工事でした。落ち度を探し、手抜きだった部分を直してきたのです。これから上物が立っていきます。それぞれの個性を生かした上物を建てあげていきましょう。(要約者：行司佳世)